

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の目の触れる場所へ法人の理念を掲げて意識の統一を図っている。全体会議、ユニット会議等の場においても意識の統一を図っている	法人の理念、「人は人として存在することによって尊く、真の福祉は人の尊さを知り個人の人格を敬愛することから始まる」が玄関に掲示されており、来訪者にも理解をいただいている。ホームとしての独自の理念あるいは意思統一のためのスローガ的な目標を作ることも検討している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区長さんをはじめとする地域の方々への相談や情報提供をして頂いたり、地区行事への参加をさせていただき地域の方と交流する機会をもっている	区費を納め区民となっており、地区の文化祭の見学や敬老会に参加した利用者もいる。秋のお祭りでは獅子舞いがホームに来訪し披露していただいている。幼稚園児や中学生との交流も行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括支援センター、居宅介護事業所からの紹介者の見学や、地域の方へ向けて当事業所の内容を紹介する機会を設けて理解いただけるようにしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、利用者様やサービスの実施状況を報告し、いただいた助言や改善策案を実際の現場でのサービスの向上に努めている	家族代表、区長、副区長、地区社協代表、地区と字町の民生児童委員各一人、市介護保険課担当者、地域包括支援センター職員、ホーム関係者参加の下、奇数月の第4木曜日に開催し、ホームの現状報告を行い、頂いた意見を参考にサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議へ出席していただき、助言をいただいている。 事業所指定更新の際は事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えた	法人が市から受託している地域包括支援センターが同じ敷地内にあり、常に相談している。今年度はグループホームとしての指定更新があり、介護保険課と密に連絡を取り助言を頂いた。介護認定の更新申請や区分変更申請は家族の依頼の下、代行しており、調査時には日頃の様子を職員が情報提供している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除への意識をもってケアをしている。玄関の施錠については、神奈川県的事件後から施錠をしている。理由は事務所、ユニット内から玄関の出入りが死角になるためである	他県であった事件後、利用者の安全等を優先し玄関の施錠をしているが、離脱傾向のある利用者の様子を見ながら声をかけ散歩などで対応している。法人では毎年、身体拘束・虐待についての研修を行っており、全体会議で声の大きさや言葉など、接遇についても時折議題に上げ注意を喚起している。	

グループホームこもれ陽栗田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員が高齢者虐待防止関連法についての意識を強くもち、事業所内での虐待が見過ごされていないか注意を払い、職員会議又は通常のミーティングの中においても常に意識するように話している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている利用者様がいる 管理者及び職員は関係者と連携をとり支援を実施している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約内容、重要事項等の説明を充分に行ない、不安や疑問点を確認したうえで同意を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所の新聞は隔月で発行し、利用者様の様子をお知らせしている。新聞とは別で毎月ご家族宛てにお便りを出し、ご意見ご要望をお伝えいただくように通知していると共に来所時、電話にてご意見を言っていたけようにしている	自ら要望などを伝えることが出来る利用者も多く、日々、聞いたり様子で汲み取るなど個々に合ったケアに取り組んでいる。家族には面会時に声掛けし日頃の様子を伝え、意見や要望を聞いている。遠方の家族には手紙や電話で連絡を取り、意思疎通を図るようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員と同様に介護業務をしつつ、職員の意見や提案に向き合い話している。 全体会議、ユニット会議での意見の交換、毎日のユニット毎のカンファレンスの場においても意見の交換をしている	2ヶ月に1回の全体会議、ユニット会議、また、必要に応じての会議などで意見交換している。管理者および職員の交替もあり、来年度からは人事考課制度を取り入れる意向がありサービスの向上に反映させるような仕組みづくりも進んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は事業所の管理者と共に職員の勤務状況の把握をし、資格取得の支援や、スキルアップができる体制を整備している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受講し、知識や技能を習得し個々の意識や意欲を高めるよう進めている		

グループホームこもれ陽栗田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の場で他事業所職員とケアの情報交換ができる場を作っている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に自宅を訪問し、本人、家族と面談する中で、困っていることや不安なこと、要望をヒヤリングしたうえで本人、家族に安心していただける関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からそれまでの生活歴、家族関係、現在の生活の状況、心情を引き出し信頼できる関係づくりの構築に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の状況や希望をお聞きして必要としているサービスを見極めるよう努めている。又必要としているサービスが他のサービスである場合は説明をし、紹介している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者という関係だけではなく、人対人として同じ時間を共有している関係を築けるようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への連絡、特に遠方に住んでいらっしゃる家族へは電話、通信にて本人の様子を連絡、報告すると共に相談をしている。家族との連携を常に意識している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの店、馴染みの人と関われる時間を作っている	ホーム利用前からの知人が家族と共に面会に来訪しおしゃべりを楽しまれたり、家族との定期受診時に馴染みの店で外食を楽しまれたりしている。また、地元の善光寺や川中島古戦場など、馴染みの場所への外出を行っている。	

グループホームこもれ陽栗田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性は常に把握し、職員間で情報を共有し、孤立する利用者がいないように努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後であっても来所して下さる家族がいる。利用者の思い出話や入院中の方は現在の状況をお聞きして相談や支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で発する言葉、表情等により希望や意向を察するよう努めている	殆どの利用者は思いや希望を伝えることが出来るので、日々意向を聞き、可能な限りそれに応えられるように支援している。生活歴や嗜好等についても家族からの情報をより多く集めるようにし、また、ホーム利用後に職員が把握したのもも記録として追加し、職員間での情報の共有を行い、一人ひとりに合った支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前の生活歴の情報が少ない方は、本人、家族来所時に生活歴を伺っている。新規入居の方には入居前事前訪問時にこれまでの暮らし、生活環境の確認をしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できないことに目を向けるのではなく、できることを見つけ出していくよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を確認している。日々のカンファレンスの中で課題とケアの在り方について職員間で話しあっている	介護計画の目標の期間は1年を基本としておりそれに沿い援助内容を検討している。見直しの時期には計画作成担当者がモニタリングを行い、ユニット会議で意見交換している。状態に変化が生じた時にはその都度会議を開き、新しい目標や援助内容を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケア記録、職員連絡ノート、申し送り、カンファレンスを通して個々の状況把握をし介護計画の見直しに活かしている		

グループホームこもれ陽栗田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況、その時々生まれるニーズにはその都度対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の役員、地区社協との協働により利用者が豊かな暮らしをおくれるように支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力病院や、利用者の主治医への受診支援を行ない、連携をとっている。家族対応での受診では必要な情報を交換している	法人の母体の病院が協力医となっており、契約時に説明している。利用者や家族の希望を聞き、利用前からの主治医を継続されている方や協力医を主治医とされる方もおり、適切な医療が受けられるよう支援している。家族が受診の付き添いをする際には、日頃の様子を正しく伝え支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置し、利用者の健康チェック、薬の管理、医療機関との連携をとっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は家族、入院先医療機関の地域連携室、病棟看護師等の関係者に連絡し、長期化しないように連携をとっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化に伴う指針について説明を行ない同意を得ている	利用契約時に重度化した場合の指針を基に説明している。状態の変化に応じて家族、医師、看護師、職員で話し合い最善の方法を考え指針に従い同意を頂いている。契約書にも「医療上の対応」として、緊急時は利用者もしくは利用者代理人の希望を優先することが明記されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変、事故発生時に備えての救急法の訓練ができていない		

グループホームこもれ陽栗田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日勤帯、夜間帯を想定しての防災訓練、地域と、避難方法、協力体制について、運営推進会議で話し合いをする予定である	年2回、定期的に消火・避難・救助訓練が行われている。そのうち1回は消防署員の参加の下、実施している。防災設備として消火器・スプリンクラー・自動火災報知器・避難器具・非常階段などが完備されている。住宅地ではあるが、地域との相互の防災についての連携は今後の課題となっている。	運営規定に非常災害時・風水害・地震等に対処する計画書の作成が明記されている。職員の交代を機に地域との相互連携体制について検討し、非常災害等に備えられることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重するため敬語を使うことを基本とし状況に応じた対応、接し方を会議の席や日常のカンファレンスで確認し合っている	プライバシー保護のマニュアルが作成されている。年1回、法人内で接遇研修が開かれており、参加した職員が職員会議で研修内容を伝え周知している。プライバシーを損ねるような言葉や対応が見受けられた時には管理者から声掛けし注意を促がしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中から本人の想いをくみ取り、何気なく口にした言葉を書き留め、職員間で共有し自己決定できるように支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ユニットケアの基本は一人ひとりの体調や生活リズムに添った暮らし方を尊重することであると認識し、体調やペースを大切に柔軟な対応を心掛けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	不定期に依頼している理髪は本人の希望に沿ったヘアスタイルにしている。洋服は利用者に選んでいただくなど意思を尊重した支援をしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	四季折々の食材を取り入れ、好みを聞き献立にとりいれている。食事の下ごしらえ、食事の準備、下膳、食器洗いなど一緒に行なっている	殆どの利用者は常食である。食材により刻みやとろみの利用者もいるが、なるべく完食出来るよう対応している。利用者は職員と一緒に長野名物のおやつづくりをしたり、食事の用意や片付けを行っている。2～3ヶ月まとめて誕生会を開き、賑やかに食事や歌を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医療面での指示が出ている方は指示通りに提供している。食事量、形態、水分量は一人ひとりの状態や習慣に応じた支援をしている		

グループホームこもれ陽栗田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声がけ、誘導をして口腔内を清潔に保つよう支援している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼夜共に排泄のパターンを把握、又は利用者の様子を観察し、排泄誘導しできる限りトイレでの排泄ができるよう支援している	見守りの必要な方が殆どで、排泄表によりパターンを把握し、様子や時間で声掛けしさりげなくトイレ誘導している。失敗があった時などは他の利用者に配慮し、お風呂にお誘いし清潔を保つよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表に記録し排便状況の把握をしている。食物や水分補給、乳製品の提供、運動への働きかけなどおこなっている。看護師との連携により内服薬の使用も行なっている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に入浴曜日を決めているが、その方の心身の状態により柔軟な対応をしている	週2回の入浴を基本としているが、体調などにも配慮し柔軟に対応している。ミスト浴も設置されており、浴槽での入浴が困難な方も温まる事が出来ている。三面介助型の浴槽により、職員二人で介助することもある。季節に応じてゆず湯や入浴剤などでお風呂を楽しんでいただいている。入浴されない寒い日などには足浴により体が温まるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムやその時々状況に応じた対応をしている。居室の室温、寝具なども含め気持ち良く眠れるような環境にも配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬は職員が把握できるよう個人ファイルに綴ると共に薬が変わる場合は看護師に説明を求め、職員が把握できるよう努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の暮らしの中で一人ひとりの力を活かした役割や楽しみごと、散歩、買い物など気分転換等の支援をしている		

グループホームこもれ陽栗田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩、敷地内、デッキなどで外の空気に触れていただく時間をもてるよう支援している。 地域の行事への参加、家族との外出など連携をとりながら外出できるようにしている	天候や体調に配慮し出来る限り外気にふれるように散歩している。夏はウッドデッキで体操したりお茶などを飲み、秋には日向ぼっこなどしている。季節に応じてユニット毎に外出を計画し、花見、紅葉狩り、菊花展などを楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談の上、買い物、受診時の支払いを行なっている方がいる。食材、備品など施設の買い物に同行していただき、レジでの支払いをしていただくこともある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話に出ていただき声を聴いたり話をさせていただいている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	狭い空間であるが、テーブルの配置を考えたり、グリーンや花、絵を飾るなど気持ちの良い環境になるよう努めている	居室入り口には名札などはないが、自分の居室として迷うことなく、また、トラブルもなく、一般家庭の雰囲気を感じられる。食堂兼リビングのテーブルの形状は曲線型で一人ひとりの席が決まっており、ゆっくりと食事が摂れるように工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られた空間ではあるが、居室、リビング以外の廊下にソファを設置し、仲間と会話をしたり一人で過ごせる空間をつくっている。 又、ウッドデッキの活用し天気の良い日は椅子に座って寛いでいただけるスペースとしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族には危険な物以外であれば、馴染みの家具や品物を持ちこんでいただけるように伝えている	広い居室には大きなクローゼットが設置されており、馴染みの筆筒や好みの物が持ち込まれ、また、思い思いに家族の写真を飾るなど、居心地よく過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのできること、わかることを把握し安全且自立した生活ができるようにしている		